



神経障害性疼痛とお薬について

最近、電気が走るような痛みや強くしびれるような痛みはありませんか？
もしかしたらそれは神経の痛み、「神経障害性疼痛」かもしれません。そこで
今回は、神経障害性疼痛の概要と治療についてお話ししたいと思います。

○痛みの分類について

痛みは発生機序により、「侵害受容体性疼痛（組織の損傷による痛み）」、
「神経障害性疼痛（神経の損傷による痛み）」、「非器質的疼痛（組織や神経に
損傷がない原因不明の痛み）」の3つのタイプに分けられます。また、「神経
障害性疼痛」は原因となる神経の部位によって末梢性（帯状疱疹後神経痛・
糖尿病性神経障害など）と中枢性（圧迫性脊髄症・パーキンソン病に伴う疼
痛など）に分類されます。

○神経障害性疼痛の原因について

神経障害性疼痛は、40代以上の方に多く、外傷や感染症、合併症、遺伝
などといった何らかの原因により神経が障害（損傷や圧迫等）されることで
起こる痛みのことをいいます。

○神経障害性疼痛の症状について

神経障害性疼痛の症状の特徴として、①自発痛（何も刺激が
なくても感じる痛み）、②アロディニア（通常痛みを感じない程
度の刺激で痛みを感じる）、③痛覚過敏（軽い痛み刺激なのに激
しく感じる）が挙げられます。また、「針で刺されるようにチク
チクとした」、「電気が走るようにビリビリとした」、「しびれる
ようなジンジンとした」などと表現されることがあります。



○神経障害性疼痛の治療について

神経障害性疼痛の治療においては、薬物治療が基本となります。

①神経障害性疼痛治療薬（リリカ OD 錠、タリージェ錠）：神経の痛みの治
療に使われる薬剤で、痛みを伝える物質（神経伝達物質）が過剰に放出され
るのを抑えることで痛みをやわらげます。

②三環系抗うつ薬（トリプタノール錠）、セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬（サインバルタカプセル）：セロトニンやノルアドレナリンといった神経伝達物質の細胞への取り込みを阻害することで、痛みを感じにくくする経路を活性化させ痛みをやわらげます。

③ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液（ノイロトロピン錠）：ワクシニアウイルスを接種したウサギの、炎症を起こしている皮膚組織から抽出した成分を含有する錠剤です。痛みを感じにくくする経路を活性化することで痛みをやわらげます。神経障害性疼痛の中でも帯状疱疹後神経痛に対して使用されます。

④オピオイド鎮痛薬（トラマール OD 錠、トアラセット配合錠、医療用麻薬）：脊髄と脳に存在するオピオイド受容体に結合することで、脊髄から脳への痛みの伝達を遮断することで痛みをやわらげます。なお、他の薬剤を用いても痛みがおさまらない場合は、医療用麻薬のオキシコドンやモルヒネ、フェンタニルなどが使用されることもあります。（トラマール、トアラセットは非麻薬性オピオイド）

※神経障害性疼痛の治療に使われる飲み薬の副作用として、めまいや眠気が現れることがあるため、自動車運転等の危険を伴う機械操作に注意してください。また、ご高齢の方は転倒にも注意してください。

○薬物療法以外の治療について

薬物療法で改善が認められない場合は、神経ブロック療法（神経や神経の周辺に局所麻酔薬を注射して、神経伝達をブロックする方法）、神経刺激療法（弱い電気刺激を与えて痛みをやわらげる）、理学療法（運動・温熱・電気刺激療法等のリハビリテーション）、認知行動療法（痛みについての誤った認識を修正する認知療法と、痛みと行動の関係を知り、日常生活でできることを増やしていく行動療法とを組み合わせた治療法）、リエゾン療法（整形外科や心療内科・精神科など複数の医師が連携して治療にあたり、心と体の両面から治療を行う方法で、薬物療法や運動療法と認知行動療法などを併せて行う）などの治療方法があります。

なお、薬物療法や神経ブロック療法で症状の改善が見込めない場合に、手術療法が選択される時もあります。
～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、
医師又は薬剤師までご相談ください。～

